

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2024年度 助成者)

作成日 2024年 8月 16日

氏名 (フリガナ)	遠藤 栞里 (エンドウ シオリ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2024年8月5日 (月) ~ 8月10日 (土)
大学名	名古屋大学
学年	5年

この度、Hawaii Tokai International Collegeにて開催された医学部夏期集中医学研修に参加いたしました。私は大学のプログラムで来年の春から3ヶ月の臨床留学を予定しており、それに向けて実践的な医学英語を身につけたく参加を決めました。本プログラムを通じて、History TakingとCase Presentationといった実践的な医学英語スキルやPBL (Problem Based Learning)にて臨床推論や医学用語を英語で学ぶことができ、大変有意義な5日間でした。

Case PresentationとHistory Takingでは患者役のJABSOMの生徒に問診を行い、その情報をまとめ、鑑別診断を考えてCase Presentationを行いました。患者にどのように質問して情報を集めるのか、Case Presentationの型にどのようにまとめるのか、鑑別診断とその根拠の考え方を実践的に学びました。実際にアメリカで働いている医師の方にPresentationをしてフィードバックをいただくことができ、効率的に自信のプレゼンスキルを向上させることができました。最後のPresentationの際に、アメリカのレジデントでも通用するというお言葉をいただくことができ、自身の成長を感じ、自信に繋がったとともに、今後もCase presentationの練習を続けようと強く感じました。

PBLではグループで与えられた患者情報から臨床推論を行いました。Emergencyな疾患から想起し、次にCommonな疾患を考えたり、必要な検査や情報の解釈を行ったりするところは、日本でのPBLと同様でしたが、医学英語力不足から、英語で考えるのは難しく、更なる勉強が必要だと感じました。他の学生から教えてもらったり、授業外の時間にまとめたりする中で知識を深めることができたので、臨床留学に向けて今後も継続していきたいです。

また、クリニックを訪問したり、実際にハワイで働く先生方からのお話を伺ったりする機会もありました。アメリカの医療システムやプライマリケアの様子を肌で感じることができ、新鮮な気持ちになりました。お話の中で先生方のバックグラウンドや働き方が様々であることが分かり、具体的なキャリアパスに関するイメージを膨らませることができました。

さらに、JABSOMの学生やこのプログラムに参加した他学生との交流もできました。アメリカでは一度四年制の大学を卒業した後に、厳しい選抜を経てMedical schoolに入学していることもあり、医学の学習へのモチベーションが高く、知識量も豊富であると感じました。JABSOMでの教育システムや学習環境は日本とは全く違い、最初からPBLを通じて疾患をベースに学習を進めていくことに驚きました。プログラム参加者には、私と同じように臨床留学の予定がある学生や、将来アメリカで働くことを真剣に考えており既にUSMLE STEP1を取得している学生、医学以外に研究や課外活動をしている学生がいて、たくさんお話することができとても良い刺激になりました。今回できた素晴らしい繋がりを今後も大切にしていきたいと考えています。

最後になりますが、医学部夏期集中医学研修開催にご尽力いただきました、日米医学医療交流財団の皆様、Hawaii Tokai International Collegeの職員の皆様、先生方、JABSOMの学生の皆様に心より感謝申し上げます。今後も医学英語の学習を継続し、本プログラムで学習したことを自身の将来に活かしていきたいと思っております。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。